

本資料のうち、枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	02-工-A-08-0003_改0
提出年月日	2021年6月15日

## 工事計画に係る説明資料

原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備

(真空破壊弁, ダウンカマ, ベント管, ベントヘッド)

(本文)

2021年6月

東北電力株式会社

## 申請範囲

- 7. 原子炉格納施設
  - 7.3 圧力低減設備その他の安全設備
    - (1) 真空破壊装置
    - (3) ダウンカマ
    - (4) ベント管
    - (5) ベントヘッド

7.3 圧力低減設備その他の安全設備  
 (1) 真空破壊装置

			変更前	変更後
名		称*1	真空破壊弁	変更なし
種		類	逆止め弁	
寸法	呼び径	— *2	□ *3	
	厚さ	mm	□ *4 (□ *4, *5)	
材		料	SGV49	
駆動		方法	空気作動 (窒素作動)	
個		数	6	
取付箇所	系統名 (ライン名)		—	
	設置床		原子炉格納容器内 O.P. -8.10m*4	
	溢水防護上の区画番号		—	
	溢水防護上の配慮が必要な高さ		—	

注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「呼び径(A)」と記載。

\*3 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「□」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*4 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*5 : 公称値を示す。

## (3) ダウンカマ

			変更前	変更後	
名称			ダウンカマ	変更なし	
種類		—	管形		
最高使用圧力	内圧	kPa	427* <sup>1</sup>	変更なし 854* <sup>2</sup>	
	外圧	kPa	13.7* <sup>1</sup> , * <sup>3</sup>	変更なし	
最高使用温度			℃	171	変更なし 200* <sup>2</sup>
主要寸法	外径	mm	 * <sup>4</sup>	変更なし	
	厚さ* <sup>5</sup>	mm	 * <sup>3</sup> (  * <sup>4</sup> )		
材料			—		SGV49
個数			—		64

注記\*1 : S I 単位に換算したものである。

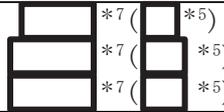
\*2 : 重大事故等時の使用時の値。

\*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成 2 年 5 月 24 日付け元資庁第 14466 号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-1-3-1 ベントヘッド及びダウンカマの基本板厚計算書」による。

\*4 : 公称値を示す。

\*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

## (4) ベント管

			変更前	変更後
名称			ベント管	変更なし
種類		—	圧力抑制形	
最高使用圧力	内圧	kPa	427* <sup>1</sup>	変更なし 854* <sup>2</sup>
	外圧	kPa	13.7* <sup>1</sup>	変更なし
最高使用温度		℃	171* <sup>3</sup>	変更なし 200* <sup>2</sup>
* <sup>4</sup> 主要寸法	内径	mm	 * <sup>5</sup>	変更なし
	厚さ* <sup>6</sup>	mm	 * <sup>7</sup> ( * <sup>5</sup> ) * <sup>7</sup> ( * <sup>5</sup> ) * <sup>7</sup> ( * <sup>5</sup> )	
材料		—	SGV49	
個数		—	8	

注：記載の適正化を行う。既工事計画書では原子炉格納容器として記載。

注記\*<sup>1</sup>：S I 単位に換算したものである。

\*<sup>2</sup>：重大事故等時の使用時の値。

\*<sup>3</sup>：原子炉格納容器の最高使用温度（ドライウエル）を示す。

\*<sup>4</sup>：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主要寸法及び個数」と記載。

\*<sup>5</sup>：公称値を示す。

\*<sup>6</sup>：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

\*<sup>7</sup>：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成2年5月24日付け元資庁第14466号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-1-1-3 ベント管の基本板厚計算書」による。

			変 更 前	変 更 後
名 称			ベント管ベローズ	変更なし
種 類		—	圧力抑制形	
最 高 使 用 圧 力	内 圧	kPa	427* <sup>1</sup>	変更なし 854* <sup>2</sup>
	外 圧	kPa	13.7* <sup>1</sup>	変更なし
最 高 使 用 温 度		℃	104* <sup>3</sup>	変更なし 200* <sup>2</sup>
* <sup>4</sup> 主 要 寸 法	内 径	mm	 * <sup>5</sup>	変更なし
	厚 さ* <sup>6</sup>	mm	 * <sup>7</sup> (  * <sup>5</sup> )	
材 料		—	SUS316L	
個 数		—	8	

注：記載の適正化を行う。既工事計画書では原子炉格納容器として記載。

注記\*1：S I 単位に換算したものである。

\*2：重大事故等時の使用時の値。

\*3：原子炉格納容器の最高使用温度（サブプレッションチェンバ）を示す。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主要寸法及び個数」と記載。

\*5：公称値を示す。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

\*7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成2年5月24日付け元資庁第14466号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-1-1-11 ベント管ベローズの強度計算書」による。

## (5) ベントヘッダ

			変更前	変更後	
名称			ベントヘッダ	変更なし	
種類		—	円環形		
最高使用圧力	内圧	kPa	427* <sup>1</sup>	変更なし 854* <sup>2</sup>	
	外圧	kPa	13.7* <sup>1</sup> , * <sup>3</sup>	変更なし	
最高使用温度			℃	171	変更なし 200* <sup>2</sup>
主要寸法	内径	mm	 * <sup>4</sup>	変更なし	
	厚さ* <sup>5</sup>	mm	 * <sup>3</sup> (  * <sup>4</sup> )		
材料			—		SGV49
個数			—		1

注記\*1 : S I 単位に換算したものである。

\*2 : 重大事故等時の使用時の値。

\*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成2年5月24日付け元資庁第14466号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-1-3-1 ベントヘッダ及びダウンカマの基本板厚計算書」による。

\*4 : 公称値を示す。

\*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。